

伝統遊具づくり福笑い

目隠しをしておかめやひょっとこの顔をつくる「福笑い」は、笑いを引き起こす遊びとして親しまれています。現在は紙に描いた顔のパーツを使うのが主流ですが、寛文4年(1664年)の「絵本大人遊」には、こより(紙によって糸状にしたもの)で、目、鼻、顔の形などを作り、目隠しをして輪郭内に目、鼻をおいて顔を完成させる遊びが記録されております。

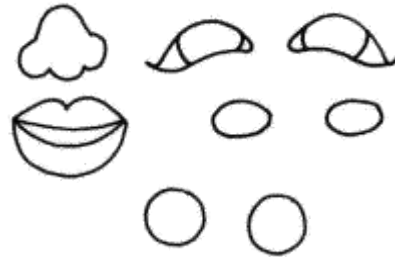
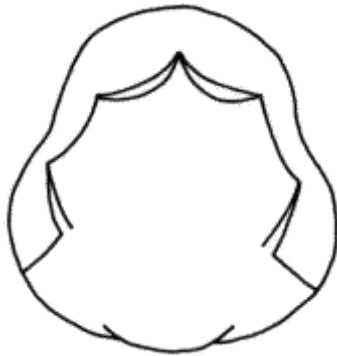
福を呼ぶめでたいあそびとされ、今でも正月の楽しい子ども遊びとなっています。

材料：画用紙

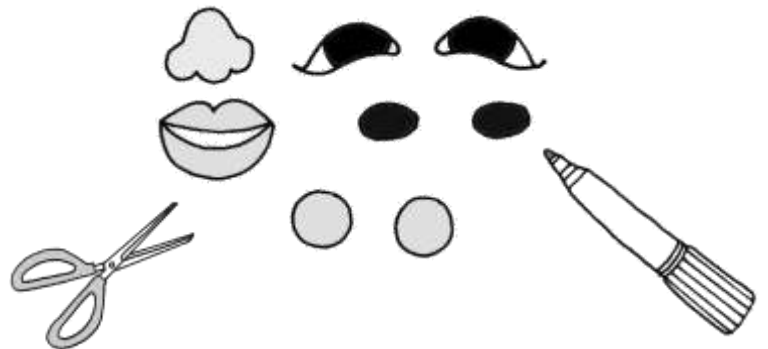
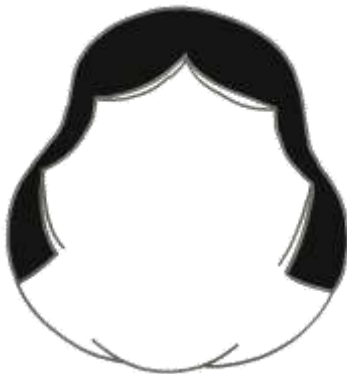
道具：はさみ・サインペン

《作り方》

1. 厚紙に土台となる顔の輪郭と、眉、目、鼻、口など顔のパーツを書く。



2. サインペンで色を塗り、ハサミで切り取る。



《遊び方》

ハンカチ・手ぬぐいなどで目隠しをしてお友達に一つずつ眉、目、鼻、口という順番に手渡ししてもらい、つけていきます。目隠しをとればどんな顔になっているかな!?

身近な人の顔や、好きなキャラクターの顔を描いても楽しいよ。色々な顔で遊んでみよう。

